



小布施町スポーツ少年団サッカー一部



雁田山希少種シリーズ
【ヒメニラ ユリ科】

どちらかというところの所にあり、目立たない可憐で小さな白い花をつけている。雁田山では2箇所確認されている。

栗が丘 記・清水照雄

- 3月第2回・4月・6月会議……………P2・3
- 視察研修……………P4・5
- 議会報告&意見交換会……………P6・7
- 一般質問（12名）……………P10～21
- 傍聴記・学生が語る未来の小布施……………P22

学生が語る未来の小布施！

目には見えない大切なこと

清泉女学院短期大学 幼児教育科卒



小林 愛実

私は小さい頃から踊ることが大好きで3歳の頃

からクラシックバレエをやっています。両親は新体操をやらせたいと思ったのですが、こわいと感じた私はクラシックバレエの道を選びました。学校が終わってレッスンへ行くのが当たり前で、学校の友達と遊ぶ時間もなく、中高生の時には、

文化祭の準備が最後まで盛り上がりつつある中、有名な東京の先生が待つレッスン場へ泣く泣く行ったこともありまし

た。それでも私が続けてこられたのは、毎日のレッスンへ送迎してくれる両親、またどんなにつらい時でも助け、励ましてくれる仲間がいてくれたからです。

私がバレエを長年続けていて感じることは、技が出来、上手に踊ることが出来るだけではなく関わってくれる全ての方

に、感謝して踊らなければいけないということ。発表会の時には、私がステージの真ん中で踊っている時に音楽をかけ、スポットライトを当ててくれる人がいます。

舞台裏ではみんなのお母さん達が衣装をすぐに着られるように待機し、またスムーズに舞台練習が出来るように誘導してくれます。そして何より、私ならできると信じ、丁寧に指導してくださる先生方がいます。そうやって私が輝くためにたくさんの方が関わってくれて

います。これはバレエに限ったことではなく、まさに小布施のまちづくりも同じだと思います。今、私は「小布施チャンネル」でまさに輝いている小布施の人達を紹介する立場になりました。その方達の一番の輝きを引き出せるようになりたいと思っています。そしてその裏では、みんなが住みやすく安心して過ごせる小布施町になるように、たくさんの方々が見えないところで支えてくれているというのを忘れず取り組みたいです。

編集後記

傍聴席の椅子が新しくなり大変座り心地が良くなりました。ちょうど一年前、二十五年

度自治会連合会の皆様が議会傍聴に見えられ、その後の議会と自治会長との意見交換会の中で、傍聴席の椅子があまりにも粗末だと意見が出されました。奇しくも本年度自治会連合会の皆様が初使用となりました。これを機に多くの住民の皆様が傍聴に来られることを願っています。

傍聴記

「地域ぐるみ」ということ

自治会連合会副会長（東町自治会長）

竹内 幸範



町民の仕事と先ず感じました。議員と町のやり取りの中では、双方から建設的な提案や指摘が有りました。今後さらに施策が具体化されることと信じています。

体制」のことです。

く、しかも多くの人が体験して来ていて、「地域の手助けなり支え」

次につながる様なやり取りがあったかは聞き取れませんでした。私たちもただの傍聴者、そしてお願いするだけの町民であってはならない。そして口先・小手先でかわすまいと承知しています。地域ぐるみで成すということを改めて痛感した一日でした。

傍聴席には我々自治会連合会以外の方々もおられて、こういう緊張のある空気を作り出すことも

そんな中で、まだそんな段階なのが実情かと残念だったのは、「認知症高齢者の24時間介護支援

も人間性が必ず残っていて、周りで気づかないけれど幸せと感じていく族などで、言ってみれば必死に介護している状態は今に始まった事ではな

味なのでしようが、更に

「今のところ持ち合せていない」でした。それは支援体制の組織化など真面からの対応策は成し得ていないという意味なのでしようが、更に

発行責任者

議長 関谷 明生

議員 長 関谷 明生

委員長 原 勝巳

副委員長 山岸 裕始

委員 小林 一広

委員 富岡 信男

委員 川上 健一

委員 大島 孝司

委員 関 悦子

【表紙の写真】
明日の大会に向かって
夢を力に！！

（大会前日の自主練習小布施町スポーツ少年団サッカー部）

3月第2回 4月 6月 会議

3月第2回会議

平成25年度一般会計補正予算……………全員挙手

歳入（補正）

地方交付税……………83,971千円
国庫補助金……………10,000千円

歳出（補正）

土木費（道路除雪費）……………29,148千円
予備費……………64,643千円

4月会議

議案第25号 平成26年度小布施町一般会計補正予算について……………全員挙手

歳入（補正）

地方交付税……………17,691千円
国庫補助金……………56,416千円
県補助金……………21,108千円
繰越金……………18,633千円
諸収入……………3,449千円

歳出（補正）

衛生費（がん検診等事業費）……………304千円
農林水産事業費
被災農業者向け支援事業補助金……………112,832千円
土木費（公園費）
スポーツコミュニティセンター……………2,433千円
教育費（教職員住宅改修費）……………1,728千円

6月会議

議案第26号 平成25年度（繰越事業）農山漁村地域整備交付金（農業集落排水）……………全員挙手
機能強化 雁中地区処理施設機能強化工事請負契約について

【総務産業常任委員会】

平成26年度一般会計補正予算……………挙手多数

歳入（重点）

宝くじ補助金……………7,000千円
元気づくり支援金……………320千円
水路事業分担金……………924千円

歳出

総務費

コミュニティ推進事業費……………5,000千円
（六川・松村神楽への補助金・宝くじ助成金）
庁舎等整備事業……………798千円
（庁舎非常用電源修繕と北斎ホール高圧受電改修費）

条例の制定

小布施町土木工事分担金徴収条例の制定……………挙手多数

主な質疑

- Q 長野県下の分担金徴収条例制定の状況はどうか。
- A 近隣市町村では、寄付金は2市1村、分担金条例は3町村、負担無しは1市1町。用地は地元で確保し、費用、施工は行政が1市。
- Q 車社会の時代、一部の人に受益者負担を求める時代ではないのに条例を制定するのは何故か。
- A 過去の経過を踏まえ、寄付金の負担を改め分担金として負担願いたい旨、負担率の軽減、発生するケース、発生しないケース等自治会長会議の中で説明をし、ご理解頂いている。
- Q 財政が健全化してきているとの報告の中、分担金を徴収するのは何故か。
- A 道路法、地方自治法で受益者負担は認められており、町も貴重な財源として収入させて頂いている。
- Q 著しく利益を受けるとは行政はどう捉えているか。
- A 地区内の道路幅が狭い道での改修、舗装等の要望はその地区に利益があると考えている。
- Q 負担率を下げた理由は。
- A 寄付金から分担金に変えるにあたり負担を見直した。
- Q 分担金は要望の有無に係らず負担するのか。
- A 要望のあったものに対する負担金で、町が独自に行うことに対しては対象外。
- Q 分担金はどのような形で徴収するのか。
- A 基本的には自治会を窓口に入金をお願いします。

条例の改正

小布施町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正……………全員挙手

- Q 4月1日以前に退職した団員へどの様に説明したか。
- A 特に説明はしていない。



住民の安心・安全の為に日夜技術を磨く消防団員

規約の変更

北信地域町村交通災害共済事業組合を組織する地方公共団体の数の増加及び規約の全部変更について……………全員挙手
東御市、南・北佐久郡等加わり9町村から22市町村に増加……………全員挙手

【社会文教常任委員会】

議案第30号 平成26年度小布施町国民健康保険等別会計補正予算……………499千円 賛成多数

主な質疑

- Q マイナンバー制度に伴うものだが、システム改修は会計を維持するためのものなのか。
- A 各業務を行うに際し、個人番号を処理するためのシステム改修です。
- Q 会計ごとにシステムを改修する必要があるのか。
- A 改修するシステムは国保、後期高齢者医療、介護保険、健康管理システムなどがあります。国保システムの運用は国保特別会計で処理していて、後期高齢者医療や介護保険など他のシステムも同様です。このため、国保システムの改修費は、国保特別会計で計上しています。

議案第31号 平成26年度小布施町後期高齢者医療特別会計補正予算……………200千円 賛成多数

議案第32号 平成26年度小布施町介護保険特別会計補正予算……………600千円 賛成多数

主な質疑

- Q 社会保障、税制度システム整備補助金1,694千円の内訳は。
- A 国保、後期高齢、介護保険の特別会計分と障害

者福祉、児童福祉など一般会計分があります。特別会計分は、一般会計から繰出します。

システム改修補助基準額が国から示され、それに基づき補助金の申請を行います。

【政策立案常任委員会】

請願第1号

町営テニスコートを屋内コートに通年利用出来る設備として改築をお願いする請願書 趣旨採択

陳情第2号

「義務教育費国庫負担制度の堅持」を求める陳情書 採択



町営テニスコートで屋内ゲートボールもできるように請願

国道403号の進捗状況について

小布施町の中心を通る国道403号の整備に向け、平成22年3月より平成23年4月まで、上町、中町、伊勢町公会堂で近隣住民の方々に説明をしました。その後、町、県関係者、有識者、中部電力、住民により「403号デザイン会議」を立ち上げ、検討を続けて来ました。合計13回の会議を開催し、「人」を中心と捉えた道としての要望書を作成し、県に提出しました。その後の進捗状況説明を政策立案常任委員会の申し出により受けました

- 平成25年度ゴールデンウィーク期間中に、須坂建設事務所で社会実験が実施された。
- 平成26年度以降交通量調査と概略設計が行われる予定。
- バイパスは須坂市と中野市間で考えたいとの報告で、町内の403号については事業化に向けての調査研究を行っている。

平成 26 年度小布施町議会 視察研修 報告書

小布施町議会では平成 26 年度の議会視察研修を下記日程で行った。今年度は鳥取県、島根県と 2 県を視察の目的とした。特に島根県隠岐郡海士町（おきぐんあまちょう）は「役場は住民サービス株式会社」を提唱し、離島という条件を乗り越え若者定住を行っている近年まれにみる人口増を実現している町である。また、鳥取県では日本一のソーラー発電施設を視察した。石見銀山は世界遺産ではあるが、大森地区は松場登美さんと言うカリスマ夫人により静かに日本の文化を蘇らせながら再生を進めている現場を視察した。

【視察研修日】平成 26 年 5 月 13 日（火）～ 15 日（木）

■ 視察内容 ■

期日	視察地	視察研修内容
5月13日	島根県 海士町	離島ながら全国から若者が「ターンする町」の取組
		隠岐にあるものを活かし「島ごとブランド化」の取組
5月14日	鳥取県 米子市	「鳥取米子ソーラーパーク」の施設・設備を視察研修 教育委員会の「ユニバーサルデザインの授業」と「学びの支援ガイドブック」
	境港市	水木しげるロード
5月15日	島根県 大田市	「石見銀山」廃坑で廃屋となった「大森地区」の 修景事業 古民家を修復し、生活文化交流の場とした取組

「所感」

日本中の離島全てが、公共事業で生かされてきた島の中で、財政再建団体転落を阻止した島民力と町長のリーダーシップは称賛に値します。

CAS（細胞膜を破壊しない冷凍技術）を町長自らが、開発会社に電話依頼したフットワークの軽さに本当のやる気を感じました。

離島のハンディキャップを知りつくし、跳ね返す戦略と適材適所の職員配置、現場主義の徹底が役場の職員をプロに変えたのではないかとと思われる。

●交流を通じた人づくり

「地産智生」「人間力」が「地域力」となる。小さな島で日本一の教育を

～ 水木しげるロード ～

水木しげる氏の漫画に登場する 153 体の妖怪たちが並ぶ境港駅前から、本町アーケードの約 800m を「水木しげるロード」として親しまれ人気を博す。役場職員が住民の反対を抑えて、始めたが、今では大勢の観光客が訪れている。商店街には鬼太郎グッズなどのキャラクターグッズが盛りだくさんありました。



みなとさかい交流館壁画



水木しげるロード

～ 海士町 ～



自然豊かな海士町



町を替えたリーダー 山内町長

●若者の定住

人口 2400 人のうち、島外から移住してきた人は 1 割に、多くが 20 代から 40 代の働き盛りの家族、(H.16～H.23 の間、330 人が I ターン) 少子化で廃校寸前だった高校にも、全国から生徒が入学

●島ごとブランド化

活いかを中心に「CAS システム」の導入で魚介の鮮度を保ったまま都市に出荷

●自律への覚悟と選択

徹底した行財政改革 人件費のカット H17 10%～50% 職員のカット H17 22%

～ 鳥取米子ソーラーパーク ～

- 設置場所 米子市葭津・大崎
- 出力規模 約 42.9MW
- パネル枚数 178,776 枚
- 年間予想発電量 約 45,278,000kw/年
(一般家庭 約 1,300 世帯の年間消費電力)
- 運転開始日 2014 年 2 月 1 日
- 運営 SB エナジー株式会社
- 設備投資額 100 億円

今まで見たことのないソーラー発電事業を見学しました。民間が自分たちの財源で行った「ソフトバンク鳥取米子ソーラーパーク」でした。

広大な敷地に設置された無数のパネルに、ただただ驚くばかりでした。

ここには、以前、県が宅地開発、工業団地開発を行ったが、大きな地震による液状化現象

により、建物建設が不可能となり、ソフトバンクがソーラー発電を行っている施設であります。

一寸の狂いもなく整然と設置されたパネルを目にし、その規模と見事な技術に感心させられました。ただ、海が近いので、除草剤をつかうことができず、「草刈り」が頭痛の種と言うことでした。



干拓地に設置された太陽光パネル

～ 米子「まなびの支援ガイドブック」 「ユニバーサルデザインの授業」 ～

●「まなびの支援ガイドブック」を作成した理由

児童生徒へ適切な指導を行うため「基本的な学級づくり」「授業づくり」についての指針となるものが必要と考えた。

●「ユニバーサルデザインの学級づくり・授業づくり」

ユニバーサルデザイン = 「誰にでも使いやすい」
ユニバーサルデザインの学級づくり = 「だれもが安心

できる、居心地の良い学級」

ユニバーサルデザインの授業づくり = 「だれに対しても分かりやすい授業」



視察風景

～ 世界登録遺産石見銀山にて古民家を修復しての町づくり ～

説明 松場登美さん

女性が田舎の豊かさに気づけば、世の中は変わる。田舎の魅力が武器になり価値にもなる。古いままの暮らしは退屈だが、少し遊びを加えれば楽しい。懐かしいのに新鮮、日本的な田舎風なおしゃれ。

地元の朽ちかけた空き家を買ひ、町並み復興も手掛けた。その結果、観光客だけでなく、ここで暮らしたいという若者や内外の芸術家らが集まるようになった。周辺地域に比べて、人口減にも歯止めがかかった。

10 年前、雑貨から群言堂（ぐんげんどう）ブランドの衣料へ。夫の大吉さん（50）が社長を務め、二人三脚で運営する会社・石見銀山生活文化研究所の年商は約 16 億円。



石見銀山当時のままの町中視察の様子



田舎町を復興させた松場登美さんとご主人

議会報告・意見交換会

自治会連合会との意見交換会

平成 25 年度の議会活動報告を下記の日程で開催しました。

- 5月18日(日) 第7コミュニティ(六川公会堂)
- 5月25日(日) 第1コミュニティ(東町公会堂)
- 6月14日(土) 第4コミュニティ(飯田公会堂)

【報告内容 概略】

○総務産業常任委員会

→構成委員・担当する業務・事業報告(予算に対する審議・計画策定などの要望・条例改正に対する審議・先進地事例の視察)

○社会文教常任委員会

→構成委員・担当する業務・事業報告(一般質問で要望、提案して実現及び予算化された事項・関係団体との意見交換会及び懇談会)

○政策立案常任委員会

→構成委員・政策立案常任委員会の必要性・政策立案常任委員の活動(陳情、請願の審査・政策立案申出書の審議・各種団体の課題、要望を政策に反映・委員会提起の課題審議)

○議会広報常任委員会

→構成委員・担当する業務・事業報告(議会だよりの発行・議会報告会の開催・その他の議会広報活動)

○議会運営委員会

→担当する業務・議会運営委員会の役割について3月会議を例に説明する。



【議長あいさつより】

議員定数は議会で調査・討論した結果、現行通り 14 名が妥当という結論に達した。来期では定数 14 名で行うことを決定させていただいたことを報告した。

【いただいた主なご意見】

- ・町の人口を5年間で12000人に増やす計画だが現実には減っている、その対応は。
- ・都住駅周辺に賃貸住宅を建設して、近隣の若い人に住んでもらったらどうか。
- ・外から若い人を呼ぶより、地元で生まれ育った若者を町に呼び戻す取り組みの方が現実的では。
- ・役場は町のシンボルなのに天井がはげていてみすぼらしい。
- ・職員の机などが煩雑で汚いので気になる。
- ・少子高齢化の対策は。
- ・若者の定住促進についての取り組みは。
- ・浸透枿の設置工事について地域住民に内容の説明をして欲しい、町内に何か所設置するのか。
- ・議会の必要性を住民によく分かるように説明することで、議員候補者が増えるのでは。
- ・副学籍制度について。
- ・リンゴの枝をエネルギーにする話があったが続行しているのか。
- ・太陽光パネルの設置は景観を損ねないように考慮して欲しい。
- ・町内に仕事はないため、若者が定住しないのでは。

- ・町内企業でもほとんどが町外在住。町内の家賃が高いからでは。補助を出すなどで町に住んでもらえばよいのでは。
- ・勤め先がないと人口は増えない。
- ・雁田に造成した工業団地はどうなっているか。
- ・町の補助で購入した農機具等が活用されていないので、議会で調べて活用できるようにして欲しい。
- ・自然に優しい農業をどう考えているのか。
- ・栗の葉っぱが側溝などに詰まって困っている、肥やしなどに活用する方法は検討できないか。
- ・太陽光でハウスの電源にすれば重油の値段が上がっているのでは、町で補助を出せないか。
- ・屋敷の中で二世帯住宅を建てようとしても半年経っても許可がおりないが、県と交渉できないか。
- ・優良農地は残す必要もあるが、定住促進のためしっかりと線引きの中で緩和して欲しい。
- ・野良猫が多くなってきていて対応できない、町でどうしていくか考えて欲しい。
- ・公共建築物の老朽化が進み、鳳凰アリーナなどでも雨漏りがしているので対応して欲しい。
- ・これから10年後の小布施を考えていくときに一人一人の議員さんは何が大切だと思っているか。



大勢の参加者との活発な意見交換



【いただいた主なご意見】

- ・初めて議会傍聴をした、もっと白熱していると思ったが、静かだった。
- ・議員定数は前回と同様とのことだが、立候補する側の気持ちとして選挙を戦うという心構えはあるのか。
- ・一般質問を傍聴したが、町側の答弁がよく理解できなかったが、もう少し聞いている人にも分かりやすくないか。
- ・今までは議員は陳情する時に付き合ってくれる人としか感じなかったが、せっかくの機会なので会期などについて聞きたい。
- ・議員一人ひとりが何を一番専門に活動しているのか聞きたい。

小布施町議会は、より多くの町民の皆さまのご意見、ご要望をお伺いするため、各地区で議会報告会や自治会長さんたちとの意見交換会等を開催しています。

いただいたご意見は、身近な問題、課題から町政全般と多岐にわたるものでした。

議会では、これらのご意見、ご要望、ご提案を真摯に受け止め、今後の住みよいまちづくりを進めてまいります。

平成26年度の議会報告会は第2、第5、第8コミュニティにて開催予定となっております。

皆さまのご参加、ご協力を賜りますようお願いいたします。



ここが聞きたい？

4月会議 一般質問

目次

小西 和実10
 ①特別職の退職金について
 ②議会と大学との協働連携について

小淵 晃11
 ①役場職員は町民のために(町民の奉仕者としての自覚を)
 ②職員の能力を生かそう

原 勝巳12
 ①千曲川河川敷林の清掃と再生について

関 悦子13
 ①図書館は知的文化のシャワー
 ②認知症を考える

小林 一広14
 ①浄水場に太陽光発電を
 ②403号の整備後の町全体のランドデザインは

大島 孝司15
 ①元気の出る商店街づくりを
 ②ソーラー発電の有効活用を

小林 茂16
 ①官民連携で空き家未然防止を
 ②119番通報時にAED情報を

富岡 信男17
 ①子育て支援充実による人口増加策を

山岸 裕始18
 ①今後の景観について考えていく場づくりを
 ②図書館の設備に対し見直しを

小林 正子19
 ①医療費窓口無料 児童クラブ充実改善の子育て支援を
 ②国の要支援を介護保険はずしに対応できるか
 ③教委改悪に反対、学力テスト結果公表しないよう

川上 健一20
 ①若者に町内で働ける場を
 ②ハイウェーパーキング拡張

渡辺 建次21
 ①認知症高齢者の見守り
 ②教育委員会の活動
 ③大学との連携—研究課題とその成果—

被災農業者向け経営体支援育成事業(雪害被害)

2月14日から2月16日にかけて、大雪で小布施町でもパイプハウス等に大きな被害がありました。

●小布施町でのパイプハウス被害件数・被害額

27農家・約1億円(平成26年4月現在)

●長野県での被害額

被害総額：92億5,627万円

主な被害は、パイプハウスの倒壊・損壊の他、野菜、花き、果樹の樹体被害や、生乳の廃棄などです。

(内訳)

農作物被害額：39億812万円 [25.6ha]

畜産物被害額：817万円

水産物被害額：412万円

樹体被害額：2,444万円 [9.1ha]

生産施設等被害額：88億2,142万円(左の推定再取得額 147億6,730万円)

[15,863棟 2,204,075㎡](平成26年4月現在)

●小布施町の対応

国の制度では建て替えに対して、国5/10・県2/10・町2/10・農家1/10と本来なら1割は農家負担のところ、小布施町の農業者が継続していくために、町が独自に農家負担の1割も補助します。



雪の重みで倒壊したビニールハウス

※小布施町では露地のぶどう棚の被害は今回の大雪ではありませんでした。農家の皆さんが雪下ろしなどの自助努力などで、被害防止に努めていただいたおかげです。

各常任委員会 報告

総務産業・社会文教常任委員会合同視察

近隣市町村の自然再生エネルギーの活用状況を視察

4月30日に近隣市町村の自然再生エネルギーの現状を視察しました。今回は太陽光発電ではありますが、可能性の裏に農業関係を取り巻く環境の変化も見えてきました。

視察場所①

◎長野市赤沼地区「農地でのソーラー発電」

リンゴ生産を主に営む農家の現状を視察しました。この農家の両親はリンゴ栽培をし、息子さんは50代前半で、ご自身で社長として会社経営をしております。今後農園を引き継ぐ予定はないとのこと。そこで自宅(屋敷)の屋根、自宅周りの畑にソーラー発電を実施した。



自宅周りをソーラー発電

屋根上・5kw自宅電力に使用、余剰分を売電。農業振興地域を雑種地に地目変更。自宅周り・20kw+30kw合計50kwを全量売電。総投資額・約2,500万円/20年間のメーカー保証/売電収入・月25~30万円(発電効率により変動)/投資額回収を8年から10年を見込む。

今後、農家にとって重要な選択を迫られる事例として注目すべきであり、賛否両論を求められる現象であるものと思われる。

視察場所②

◎須坂市における「屋根貸しソーラー発電」

次に須坂市北部体育館の屋根貸しによるソーラー発電を視察した。平成25年度に公募により施工。この基本は、須坂市の施設の屋根を貸出し須坂市におけるCO₂の削減を進めるとともに環境にやさしい須坂市をアピールでき、空きスペースの有効活用により財政負担の軽減に寄与している。

地域経済においては施工業者が地域金融機関より資金調達をし、地域経済にも貢献する。また、施工業者により非常用電源として100w 7時間稼働の装置を2台配備されていました。今現在、墨坂中学校体育館、東中学校体育館と計3施設を提供している。各施設510㎡・使用料単価300円/㎡

小布施町の公共施設への活用の検討が必要な時期に来ているのかもしれない。

視察場所③

◎須坂市新田町の「ぶどう棚でのソーラー発電」視察。

ナガノパープル・シャインマスカットなどの品質向上を狙い低炭素型農業を実現し、余剰電力を売電することで農家所得の向上と安定化を期待している。



ぶどう棚の上に配置されたパネル

現在、実証実験中であるが品質に問題がなく、かえっていい感触を得ている。設備を可動式にしてあることにより雨・日除け対策に有効と見られる。消毒等の汚れも今のところ雨による自然清掃により問題なしとのこと。今はパネル12枚・2.4kwの発電。設置においては農地の一時転用で対応、3年ごとの見直しが必要である。

この度の視察の意義は非常に大きいと感じております。自然再生エネルギーの活用は身近なところで既かなりの普及を見せております。無秩序に設置され続けるのでしょうか。近隣においてもかなり普及が確認されます。買い取り価格により普及の速度は変わり、電気料金の上昇につながります。当然国民の負担になります。地球規模での環境保全は避けられない現実の中、小布施町としても、先を見据えた議論が必要なことは事実である。



小西和実 議員

Q 町長など特別職の在職中の功績は退職金という形で報償されるべきものか？

町長、副町長という重責を担う役職は、最初から当然在職中の功績を求められている。町長の給料月額が71万5千円、副町長は60万6千円でこれは類似する他の自治体の最低額の2倍であり相当な高額上位に入っている。一方で現在の議員報酬は月額17万2千円では類似する他の自治体と比較して最低額の自治体に近く、かなり低い金額の部類に入っている。30代から50代の家庭を持った働き盛りの世代が副業を持たずにプロとして議員の職務に専念し、家族を養っていくのは非常に難しいのが現状である。一方で町長や副町長といった理事者の場合は、

特別職の退職金について

答 報酬等審議会に諮問している

(久保田副町長)

その比較的高額な給料月額の上に、退職金として町長の場合4年ごとに1500万円近くの退職金がありこれは1年あたりの積立額が大体380万円では今の平均的な若い世代の年収以上である。

①退職手当の支給対象者とその額はそれぞれ幾らか。
②若年者の就職難なども含め、多くの人々が雇用不安を抱えている中で、毎月の報酬や期末手当に加えて4年間の在職期間で退職金として支払われるこの金額についてどう考えているかを根拠とともに示して頂きたい。

A ①町長が約1、458万円、副町長が約738万円、教育長が約483万円。
②支給を受ける立場としては金額の多寡については回答を控えたい。

議会と大学との協働連携について積極的に進めて頂きたい (市村町長)

Q 制度と現実の社会との間をつなぎ、地域社会をつつていく、まさにソーシャルデザインをしていくことが議員の役割であると考えられている。議員がソーシャルデザインを担っているという事は議会にこそ地域の課題を検討していくためのソーシャルデザインののための共同連携または付属機関が必要と考えるか。

①この4月から慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンターが設立され、行政との協働の提携を結んでいるがソーシャルデザインセンターは具体的にどのような役割、そして具体的な職務を果たすのか。

②より良い社会をつくっていくという事を目的として将来を考えた討議や取り組みを行っていくことは議会、そして議員の最も重要な職務でありまた使命である。二元代表制という観点からも行政だけでなく、両輪の輪である議会と協働協定を結び議会とも協働連携していくべきであると考えますが行政としてはどう考えるか。
A ①慶應大学との研究所は互いに有する資源を活用して地域社会に寄与することを目的に設立した。地域におけるコミュニティの維持・活性化についてまず取り組んでいく。また若者会議などのプロジェクトを推進する。
②そのとおりであると考える。他の研究所も含めて、議会との連携を積極的に進めて頂きたい。



小淵 晃 議員

役場職員は町民のために(町民の奉仕者としての自覚を) 職員全体が同じ方向で、町づくりを進めたい (市村町長)

Q 地方公務員法、第30条は職員の職務の根本基準として、「職員は全体の奉仕者として公共の利益のために勤務すべきこと」と、定めています。

よって、町職員は小布施町民の全体の奉仕者であると云う自覚のもと、町民のために職務を遂行するのは当然で、そのための意識改革・環境づくりをするのは理事者の責務です。

◎白鳥孝伊那市長は「行政はサービス業」、島根県海士町の山内道雄町長は「役場は住民総合サービス株式会社」と位置付けておられます。

いずれも既成観念を超えて職員意識改革を求めています。市村町長はどう評価されているか。

A 尊敬する自治体の首長さんは多くおられます。素晴らしい首長さんの共通点は、地域の

の在り様の理念がしっかりされて、ご自分の哲学を持っておられることだ。それぞれの地域のイメージを持つ

ち、しっかりとしたビジョンに基づき、戦略を組み立て、戦術が次々に立てられていくことが素晴らしいと思います。



役場は小布施町民のために

職員の能力を生かそう

職員が働く意欲をもてる職場環境に (久保田副町長)

Q 職員の意識改革のために研修会及び研修視察は大きな効果があります。今後の研修の方針と計画はどうか。

◎職員が持てる能力を發揮するには「適材適所」「希望する業務に就く」等が望ましい。そのために「人事希望調査」を求めたら。

◎専門職等の壁もあるが、おおむね3〜5年を期限に職務が替わる(人事異動)を。

◎須高は一体、須坂市・高山村

との人事交流を、検討してはどうか。
◎部門を超え若手職員だけで議論し、町の現状認識を共有し、既存の事業・イベントの再点検をし、各事業の蘇生を図ってはどうか
A 職員がモチベーションを保ち能力の發揮できる環境づくりを、今後も継続して進めます。ご提案の事案につきましては、検討し取り組んでまいります。



原 勝巳 議員

Q 小布施町に残された自然林(千曲川河川敷林一番チヨウ)の清掃と再生により、新たな小布施の発見が得られると思われま

す。一番チヨウと呼ばれる両岸には幹回りが2〜3メートルもある泥柳の巨木が数十本あり、千曲川河川敷優良耕地を守り、岸の浸食を防ぐ役割もしています。

その自然林に分け入って見ると、ビルの3〜5階に届きそうな樹木が数本あり、又、今の季節は芽吹きが鮮やかで国鳥の雉のつがいや、フクロウ、水鳥も見られ、小布施にもまだこんなに広い自然林があることにビックリしました。しかし、茂みや、野生の野バラの下には、幾多の増水害で流れ着いた流木、ゴミ、リ



河川敷林の流木

千曲川河川敷林の清掃と再生について

答 町として今後検討するなかで協力したいと思えます

(畔上リーダー)

ンゴ、ブドウの廃棄資材や樹木にまわりつくつる草、外来種のアレチウリ、川の中のゴミ等を除去し毎年行われている「千曲川ふれあい公園花まつり」、ゴールデンウィーク前後の菜の花畑、堤防の

桜のお花見等につなげて、この広い自然林での森林浴を楽しんでもらいたい。この手つかずの自然林の清掃と再生を、多くの方々や、若者の発想で行動を起こせば色々な事が起きると思われまます。例えば「森林浴水辺ウォーキング」「カヌー、カヤック下り」等々も考えられると思われまます。町はどのように考えますか。



一番チヨウを下るカヤック

A 提案の箇所は桑や柳の大きな木があり、水辺の自然と触れ合う場として良い場所だと思えます。いくつかの課題はあると思えますが、いろいろな方にお声掛けをしたいと思います。

けをし、ボランティア活動で様々な目的のため活動していただくことはありがたいことです。町として、今後検討するなかで協力したいと思います。

図書館は知的文化のシャワー

答 「交流と創造を楽しむ文化の拠点」としてさらに発展させる (中島教育委員長)



関 悦子 議員

Q まちとしてテラソは開館五周年を迎える。開館以来、ハード、ソフト両面で数々の日本有数の賞を受賞し、内外から多くの注目を浴び続け、「死ぬまでに行きたい世界の図書館十五」に選ばれていることは、町民の誇りである。今後もそれにふさわしい図書館を守り育てていくことが重要で、新たな館長のもと、さらなる発展が期待される。

(1) 今後の運営方針は、また、何を實現していくのか。

(2) 職員体制は館長と六人の非常勤職員であるが、運営に支障がないか。今後の職員体制は。

(3) 近隣市町村からの利用状況は。

(4) 学生などの利用が多い場合、机や座席は足りているのか。今後増やすのか。

A (1) 「交流と創造を楽しむ文化の拠点」という基本方針をさらに発展させ、知的な刺激や情報の収集に努め、多くの人が集まり、触れ合い、新たな出会い、交流が生まれる場を目指す。

(2) 行事、イベントの際は、教育委員会職員が応援する。今後サポーターの力も借りて対応したい。

Q 全国で、年間一万人もの認知症の方が行方不明になっている。今後、ますます認知症の方が増え、在宅、独居で生活する方が増えていく。「住み慣れたところで、最後まで」という考え方で、地域、社会で支えて行く体制が必要。

認知症を考える

地域として、包括的に支えるシステムづくりに取り組む (竹内総括参事)

(1) 町内の認知症者数は、そのうち独居、高齢者のみの世帯数は、(2) 町内の受入れ施設と今後の計画は。

(3) 行方不明のケースと対応は。

(4) 地域、社会で支える体制は。

A (1) 127人、うち、十一人。

(2) 特養一施設、グループホーム二施設、デイサービス三施設。

今後、施設増を計画していきたい。(3) 家人が気づき、町、施設に連絡されるケースが大半。広報を行うとともに警察、消防への捜索願いを助言。

(4) 地域としての介護予防、見守りを包括的に行えるシステムづくりを早急に進める。



職員の指導を熱心に聞き学ぶ児童



小林一広 議員

浄水場に太陽光発電を

答 利用は可能。水道事業者として県、国と協議

(八代総括参事)

Q 26年度水道事業において、配水池の実施設設計及び維持管理計画の策定をゼロ予算で行うとのこと、合わせて非常時の動力である電源の確保及び動力費の削減となるべき、太陽光発電の設置を提案します。

①平成23年8月4日の事故のように本来に同じことが起こらないと言い切れるか。

②東日本大震災以降、予算において動力源の電気料金が1,000

0万増えて3,000万円になっているが値上がり分はどのようにカバーしているのか。

③設備は10年で回収できる。検討の余地は十分ある。土地貸しでも可能と考えるが。

④設備投資回収後、売電料を10年間は住民へ還元できるが。

A ①施設巡回の強化をした。各種制御装置等の機器類の部品の予備を常備した。予備ポンプも計画的にそろえている。

②町の水源は深井戸によるポンプアップで電気使用の削減は難しい。値上がり分があれば収益の減となる。駒場水源が可能になれば年間220万円ほどの節約が見込める。

③新しい浄水場ができれば現在の場所を太陽光発電としての利用

は可能。しかし昼夜の活用を検討する必要がある。

④売電事業を水道事業者が行うことができるかは県や国と協議するなど検討したい。

403号の整備後の町全体のランドデザインは

住民の方の意見を聞きながら進めたい (市村町長)

Q 「403号の早期実現を」という質問はあるが実現後の小布施町の姿も重要である。実現後には、住民、来訪者、車の流れ、一般車と観光バスの区別、商店街の盛り上がり、居住区との関係、緑の確保、農地の確保、維持等が大きく変わる可能性があると思っています。自然再生可能エネルギーの有効活用も当然含まれてくると思います。理想道路403号

A 県に提言している403号について5月末に県より説明があり、町の提案に沿って進めたいとの話がありました。実現後の町の全体像は当然必要です。巡回バスを住民の足として活用とか自転車移動や歩行による仕組みも考えると、多くの町民の方に加わっていただき意見をお聞きます。勉強会も必要と考えます。



期待される403号



太陽光発電が可能な配水池



大島孝司 議員

元気の出る商店街づくりを

答 国庫補助などの支援やお手伝いを積極的に取り組みたい

(八代総括参事)

Q 小布施町商工会の会員はこの1年間で14社が脱退し、年々減少傾向にある。この度、1店スーパードも閉店して、町の中心地はシャッター通り化しつつあり、生鮮食品店もなくなった。車を運転できない高齢者の皆さんは買い物に行きたくても買い物する場所がない。町の中心地から半径2kmのコンパスで円を描くとほとん

どが収まってしまいう小布施町である。中心地に買い物物の拠点が必要であると考えますが、見解を伺います。

A 長年にわたり営業してきた経営者の方には敬意を表したい。空いた店舗の活用をしていただけるよう関係者と連携して進めたい。高齢者の買い物支援は社協で行っている買い物サポートバスを利用していただきたい。

Q 先日、「日本一元気な商店街」として話題になってきた。佐久市岩村田商店街を視察して

きた。佐久市岩村田商店街を視察してきました。視察前日の5月22日にオープンした「こてさんね」という店舗は空き店舗を利用して6店が複合的に店舗を構成しているところで、国の補助金3分の2、市の補助金6分の1、自己負担6

ソーラー発電の有効活用を

小学校の屋上に設置し、検証します (池田総括参事)

うか。

A 本年度、小学校のエアコン設置工事に合わせて、屋根の上に太陽光発電システムを設置します。この結果を十分検証して、今後の公共施設、体育施設にも取り入れていきたい。



須坂市相森中学校の太陽光発電



空き店舗対策の岩村田「子育てお助け村」

市の補助金6分の1、自己負担6

Q 地球環境に優しく、原子力発電に頼らないソーラー発電システムを公共施設、体育施設の屋根の上に設置して、CO2削減に向けた取り組みをしてはど



小林 茂 議員

官民連携で空き家未然防止を

答 慶應大学研究室と進めたい

(富岡推進幹)

総務省の住宅・土地統計調査では、県内でも六万弱の空き家が確認されたとあります。空き家の増加と老朽化は、景観への影響、火災の発生とか、倒壊の危険など周辺住民生活の安心安全の面からも重大な課題であります。

民家は町並みを形づくる地域共有の財産であります。空き家になってしまうと財産権も絡み、一筋縄では解決できないでしょう。今から、まちの再生の柱に空き家対策を位置付け、空き家になる手前まで食い止めるための中長期的施策が急務となります。

口、終末計画作成お手伝い、未然防止研究機関の機能を持つ「(仮称)定住促進センター」の開設を考えるが、地域の皆さんと話し合う場から始めたい。②研究機関として、「慶應SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター」と連携して進めたい。



119番通報時にAEDのある位置を指令室から教えてもらえれば心強い味方になるでしょう



民家は町並みを形づくる地域共有の財産です
空き家にならぬための知恵が求められようとしています

Q

①老人や独居世帯の住む家の将来に対する心配事や元気でいられるための相談窓口の開設や、持家の終末計画作成のお手伝いをするNPO等第三者機関の立ち上げを検討すべきと思うが。②空き家対策は町の将来像の重要課題であり、研究組織を検討してはどうか。

A

①空き家予備軍への有効活用等相談窓

Q

消防指令システムの情報量に限界があり、長野市と共同運用を予定している高機能指令システムではどのような情報が新たに反映されるのか、応急処置に必要なAEDの位置情報は反映できるのか

119番通報時にAED情報を新システムに反映させたい (西原リーダー)

A

須坂市、長野市でシステム共同運用について協議中であり、反映される情報の詳細は決定していないが、AED情報の反映も求めていきたい。システムだけにたよるのではなく、設置場所、使用可能時間帯を皆さんにお知らせしていくことも重要と考えている。



富岡信男 議員

子育て支援充実による人口増加策を

答 小布施らしい教育の推進に努めます (竹内教育長)

5月8日の日本創成会議の発表によると、地方から大都市への人口流出が現在のペースで続けると、30年間で20代から30代の女性が半分以上に減る自治体は全国で896市区町村に上るとの試算が出されました。

地方では高齢者の減少で職を失う人が増える」として人口流出が続くことを前提にしています。長野県内で20代から30代の女性が5割以上減少し、「消滅の可能性がある」とされたのは34市町村で、小布施町は減少率57・7%で23番目に高い数値となっております。

崩壊、自治体運営が行き詰まる懸念があるとしています。国全体の人口が減少する中、有効な人口増加策をどう考えるか、自治体間の競争、知恵比べの時代に入ったといえます。町では、新規就農者の支援、定住促進などの政策を実施していますが、多くの人が小布施町に移住したいといった行動をとるには至っていません。

の充実が大きなポイントになると思いますが、考えを聞かせてください。

A

特色ある子育ての支援については、顔が見える小布施町のメリットを生かし、幼児期から学童期まで子どもにとって最適な教育環境を整えて、子育てを応援していくことが安心した暮らし、住みよいまちづくりに繋がります。若い世帯の移住促進にも効果があるものと考えています。

創成会議は「大都市で医療・介護の人材不足が深刻になる一方、

この数値のとおり進むと、地域



子ども教室田植え 5月24日(土) 晴天の中60人程の親子が田植えを行いました。今年度から能楽師の佐野登先生にご指導いただき、作物や天候、自然への感謝の気持ちを持つことを稲作りの体験を通して学んでいます。

過去2年間の小布施町への移住件数を見ますと、移住相談は35件ありましたが、移住件数は4件9人、新規就農者は10件19人で、そのうち町内移住者は、6件15人で、目標としている年間新規就農者10人、起業等による移住者10人に達していない状況です。

若い世代の移住を進めるには、特色ある教育の推進、子育て支援



山岸裕始 議員

Q 小布施町は「景観」に対して県内外から高い評価を受けています。

町民や企業の理解と協力のもとに歴史や風土を大切にしながら、町並みづくりが進められてきました。そういった小布施町に住むことに誇りを持っている人も大勢いらっしゃいます。

しかし、最近家を建てる時に「小布施町はうるさいから大変だよ」と言われ、諦める家族も多いと聞きます。

また看板に対しても小布施町の主要な施設に行くのに分かりづらいついというのはいく耳にします。

景観づくりはこれからの小布施町にとって定住を考えるためにも、来訪者をおもてなしするためにも大変重要な要素となると考えています。

今後の景観について考えていく場づくりを

(市村町長)

今後小布施町に住んでいる町民

が中心になり、小布施町の景観について考えていく場をつくる必要があると考えます。「小布施町景観デザイン会議（仮称）」を立ち上げ、今後の計画づくりをする考えは。

A 現在のまちづくりの基準は平成18年4月から施行した「小布施町景観計画」で定めています。

8年が経過し、計画を運用していく中で、基準などの検討課題も見受けられるようになり、今年度から景観計画の見直しに着手していきます。

景観計画の変更にあたり、多くの皆さんにご意見をいただきたい。町の考え方を理解していただくこと、そのために説明の機会、話し合いの場を持つことは大変重要

と考えています。

看板などの問題も話し合いをしていく機会ができるのではないかと考えます。今年度中に検討を進めていきたい。



全国的に評価が高い小布施の景観

図書館の設備に対し見直しを改善に向けた方法など検討していく

(池田総括参事)

Q 開館5周年を迎え内容・デザインともに全国的に、

大変注目されている施設です。

しかし、デザイン重視で「雨除け」「雪の滑り止め」がなく、不便があるという声も聞きます。また5年が経過する中で、入り口に段差ができています。今年度設計士さんが小布施に訪れ、打ち合わせをする場があると聞いています。より利用者にとって利用しやすく、訪れる人の期待に応えられるよう施設を見直していただきたいが。

A 設備面での改善策については、利用者の安全性を第一に考え応急的に対処してきました。今後設計者や設計事務所に現場に足を運んでいただきながら改善に向けた方法などについて検討していきたい。

医療費窓口無料 児童クラブ充実改善の子育て支援を

答 国庫補助額減額のペナルティーがある 実施しない 高学年の利用進め、町外クラブ利用へ支援を検討します (竹内教育長)

小林正子 議員

Q 町の次世代支援計画で「：就労の場の確保や医療費、就

学費など、経済的負担に対する軽減措置など、子育て世帯を支えることが必要」としている。町は18歳まで医療費無料にしてきたが、一旦医療費を払わなくてはならず、持ち合わせがないと受診をためらわざるを得ない。阿部知

事は地域が望むなら前向きに検討するとしている。小布施が率先して窓口無料の実施を。

A 国保国庫補助額が25年度実績で720万円減額。保険者が支払うべき医療費を町が払うようになり、手続きが複雑になる。町内医療機関は受診モラルの点から否定的意見、窓口無料は実施しない。

Q 早期治療につながり医療費削減になる。窓口無料にすべき。町は低所得者へは基金から貸付事業をやっている。利用を。

A 現在医療・介護総合法案は町民に大きな影響がある。町は何も国へ意見具申しなかったとのこと、情けない。要支援を介護保険から町に移管される。対処できるのか。

Q 現在サービスを受けている皆さんには、自己負担額を増

Q 障がいがあつて町外児童クラブへ通う場合、保護者が安心して就労できる支援が必要です。

A その子にとってどこでどんなサービス提供が最適かを、関係者全員で協議決定しています。交通費や指導員加配への補助が必要で。どう進めるのか。

Q そのような支援をする方向で検討します。

国の要支援を介護保険はずしに対応できるか

(竹内総括参事)

Q やすことなくサービス継続。現在と同等のサービスを地域の資源と特性を生かした提供を構築していく。

Q 地域ボランティアというが、要介護の方には専門ヘルパーによる心身の見守りが必要。特に認知症の方への対応は、大切です。

A 要介護状態で認知が見受けられる方への支援については、認知症地域支援推進委員を組織し、見守りや防止支援活動を行います。

教委改善に反対、学力テスト結果公表しないよう

(竹内教育長)

Q 安倍政権は戦前型教育支配のため、いじめ問題対処を理由に教育委員会を改善しようとしている。全国学力テストはそもそも反対。本来学校教育は子どもと先生が豊かに創り出すもの。テスト結果を公表しないよう求めます。

A 首長と新教育長が密接に連携して総合的な教育行政が必要と考えます。テスト結果は国県の平均点との比較や特徴を文章表現で公表、点数そのものは発表しません。



どの子ども健やかに賢く育てほしい

A

Q

A



川上健一 議員

若者に町内で働ける場を ツルヤや伊那食品工業のような志の 高い企業の誘致を考えている

(八代総括参事)

小布施町で働く就業者数は、平成22年の統計では、六千八百七十七人となっています。

大方の町民は隣の須坂市あるいは長野市に勤めています。

若者から見て、小布施町に働く場が無かったら、また須坂市・長野市にも自分が働きたいと思える場が無かったら、その若者は小布施町には来ないのではないかと、住みたいと思わないのではないかと。

人口減を食い止めるために、現在町は定住促進事業を進めていますが、この事業と並行し、若者が働ける場を確保するために、その策を講ずる必要があると思うが。

① 町は企業誘致の考えを持っているか。

② あるとすれば、どのくらいの規模のものを考えているか。

③ 誘致する企業の業種は制限を設けるのか。

④ 誘致する場所は、雁田沖工業団地の一角か。

町外からの工場誘致は考えていない。

町の企業誘致はツルヤや伊那食品工業のように志の高い企業の誘致を考えている。

雁田沖は町内企業の工場用地として考えており、来春農地の補助

事業の制約の期限が来るので、それをめざして県の担当部局と打ち合わせを進めたい。

この事業を進める事は雇用の創出に繋がるものと考えている。

ハイウェイパーキング 拡張 駐車場の拡張を検討 (畔上リーダー)

Q 高速道を利用され町にお越しただく皆さんに、気持ち良く小布施町を楽しんでいただくためには、街中の渋滞を引き起こさないよう、適切な場所に駐車場を確保し、町の中心部に車を

入れないようにすべきと考えます。

① ハイウェイパーキングの下の駐車場の拡張を要請する考えは。

② 総合公園の駐車場の拡張の考えは。

総合公園の駐車場は現在臨時駐車場として飯田・大島自治会から来年度まで3年間無償で借りている。来年の御開帳の状況等を見る中で、拡張を検討していきたい。



満車状態のハイウェイパーキング

① スマートインターの整備に伴い、上り線の駐車場が当初の半分以下に駐車台数が減っており、拡張すべきと考えています。

② 総合公園の駐車場は現在臨時駐車場として飯田・大島自治会から来年度まで3年間無償で借りている。来年の御開帳の状況等を見る中で、拡張を検討していきたい。



認知症対応型グループホーム



渡辺建次 議員

認知症高齢者の見守り

答 ほぼ毎日訪問介護によるケアと見守りが行われている

(竹内総括参事)

現在認知症患者は国内に約500万人、85歳以上の40%が罹患し、有効な予防法はないと言われて

います。長寿社会の必然的結果としての認知症患者の増大と、老老介護の世帯の増加は、その見守りの体制づくり

を急がせる大きな要因となっています。信濃毎日新聞でも取り上げており、

「悲惨な事故を未然に防ぐためにも、行政、住民、事業者が連携を強化すべきことと、万一の事故の場合、家族の負担を抑えるための公的な仕組みを整

える必要がある。」と提言されています。

脳と体のレベルから認知症を判定し、町内対象者は127名です。

在宅で独居の方には、ほぼ毎日訪問介護によるケアと見守りが行われています。

教育委員会の活動

正常に機能しているものと理解しています (中島教育委員長)

教育委員会の職務権限について

は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に19項目挙げられています。

年間会議数は17回、会議時間数は延べ約39時間、議事事項は24議案、協議事項は97件ありま

した。住民の声はどのようにして

くみ取ったのか。

社会教育委員との意見交換や、町議会社会文教委員と中

学校での授業参観や意見交換をもちました。

各委員の「出前トーク」(個別に教育機関へ出向いて調査する)はあるのか。

社会教育団体の皆さんとの交流を通じて、委員会活動に

生かしており、常に教育委員としての視点をもって活動しています。

大学との連携—研究課題とその成果

各大学ともその特色を生かして成果を上げています (市村町長)

法政大学との連携によるその成果は。

大学との縁も深まり、町内から高校3年生の推薦入学者

のわくもいただけるようになりました。

東京理科大学について。

まちづくり研究所を設置して10年目を迎えます。研究成果としては、小布施をテーマに、学生の修士論文等120を越えており、そのうち35については学界で発表され、小布施町の情報を広く発信しています。

信州大学の研究成果は。

連携は平成24年度に終了していますが、研究成果は現在

エネルギー会議等に引き継がれあらゆる面で活用されています。

慶應義塾大学大学院システムデザイン、マネジメント研究科との連携による研究課題は。

定住促進や地域の活力増進、交流産業の振興といった重要課題に関する調査研究、企画立案に取り組みます。